

ウナギの森植樹祭



2019
(令和元年).
5.12(日)
櫻井 裕

五月晴れ、風薫る、5月12日(日)はそんな日であった。高槻市の北、神峯山寺の森へ向かった。神峯山の森は、自宅から3キロほど。子どもの頃からよく出かけた、いわば庭といってもよい場所で、小学生のとき毎年耐寒遠足で寒さをこらえて歩いたことを思い出す。

電動自転車で坂道を漕ぎ上がり、15分程で神峯山寺の門前についた。神峯山寺の駐車場に自転車を止め、徒歩で神峯山の森へ向かう。それまでは薫風を受けさわやかな気分であったが、ここから先は多少勾配のきつい山道になる。

さて、神峯山寺のことである。天台宗の寺院で奈良時代に役小角が開山。以来1300年“日本最初の毘沙門天”として地元ではよく知られた存在である。全国へ向け認知度を上げるため、高槻市観光協会はポスターで『知ってます？高槻の神峯山寺 炎の向こうに不動明王が見えます。その願い、炎にのせて』と、駅構内などで呼びかけている。

毎年2月の午^{うま}の日に行われる護摩焚き供養は、修験道の行者が多くあつまり、赤々と燃え盛る炎を背景に読経、法螺貝の音が鳴り響く、迫力たっぷりの行事なので、参拝をおすすめする。境内は春の新緑、秋の紅葉ともに見事である。



神峯山寺山門



胡麻供養ポスター

ウナギの森植樹祭に昨年に続き、今年も参加した。植樹祭会場には大漁旗がはためき、田中克先生はじめ、自然学講座のメンバーを数人見かけた。受付で【うなぎの森】と焼き印のある 13 cm×4 cm の木札を参加証にいただいた。私はそれを、自宅の書斎のドアノブにつけ、一人悦に入っている。ドアの開閉のたびに、音が鳴るので多少うるさい感じはするが。

受付付近に大漁旗



今年（第7回）の実施要項によると、ウナギの森植樹祭の趣旨が、次のように書かれている。

山と川と海は一体です。山の腐葉土の中の栄養分は川から海に流れ、その中の鉄分がプランクトンを育て、それが魚の栄養になります。かつて淀川にウナギはたくさんいましたが、今や絶滅危惧種になっています。

例年に引き続き、淀川にウナギが一層繁殖できるように「うなぎの森植樹祭」運動として、高槻市神峰山寺の森に市民の皆さんとサクラやカエデなどを植栽します。日本最初の毘沙門天名刹神峯山寺もあり、また大阪でも植生や生態系が最も豊かで、風光明媚なところです。大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」にもふさわしい活動です。

また、畠山重篤さんについて、『当日は「森は海の恋人」を提唱し、国連のフォレストヒーローズ受賞者で世界的に活躍している畠山重篤氏が、忙しいスケジュールの合間を縫って、遠く宮城県気仙沼から参加し、皆さんにエールを送ります』と紹介している。

受付の始まる 10 分前にはすでに多くの参加者で賑わっており、田中克先生はと、その姿を探すと多くの方々との挨拶やお話に忙しい様子であった。

開会式は、津田産業 津田潮社長、神峯山寺住職の近藤和尚、森は海の恋人運動の畠山重篤さん、田中克先生はじめ、来賓の方々から順次祝辞や挨拶をいただいた。



津田潮社長



近藤住職



山伏によるほら貝吹奏

近藤住職は、昨年秋の台風 21 号によりなぎ倒された山の木々の現状を紹介。それらの一部は倒されたままにしている。人間の叡智をはるかに凌ぐ自然の力の大きさを知って欲しいとの話があり、神峯山の森で修業中の山伏を紹介のあと、法螺貝の吹奏があった。

田中先生は『森里海連関学』の紹介、畠山さんが“森は海の恋人”という運動を地元で起こし、今ではそれが地域の一大イベントになっていること。明日から若狭湾の海側から陸地を見て、漁師の暮らし、そこに住む人達との触れ合いや福井県原発が立ち並ぶところを見る海廻路に出かける」ことを紹介された。（この海廻路の様子は後日、朝日放送おはようコールで放映された。）



いよいよ植樹、山や森、植物の専門家である【大阪府森林組合】の担当者から説明があった。



植樹の苗木は、カエデや桜など、数種類用意しています。スコップのような道具は人数分ないので居力しあって使って下さい。小さな顆粒にした肥料は土に混ぜて使って下さい。植える場所は、この後ろにフェンスに囲まれたところです。鹿に食べられないようにしてあります。植樹を済まされた方から順に解散後になります。木札を用意しましたので、植樹した木の名前と植えられた方の名前を書いて、支柱にくくりつけておいてください。



私は《ウワミズザクラ》を選び、穴をほり、肥料を入れ、苗木を埋めるなど、説明のあったとおり心を込めて植樹した。無事に育つことを願いつつ。

参加者は100人を超えていたであろうか。少なくとも昨年よりは多いと思った。また、「自然学」受講仲間も、昨年よりは多く、心強さを感じた。今年は事前に「第7回ウナギの森植樹祭」の実施要項を配布した効果であろうか。安堵の胸を撫で下ろし、植樹した木々がすくすくと育つことを祈りつつ会場を後にした。



以上